

一般質問通告書（平成31年3月定例市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
1	広田 精治	1. 一般住宅リフォーム助成制度の創設に関する9月定例会での答弁に関して 2. (仮称)大分野津太陽光発電事業の計画に関して 3. 飲料水供給施設の維持管理について 4. 児童虐待について	(1) 現行のリフォーム助成制度は特定の人たちへの住環境向上のためのサポートで産業振興の観点からではなかったとして、産業振興で結果を出している各地の事例を検討し、本市としての判断をしたいという趣旨の答弁があった。そこで以下を問う。 ① 住環境の向上とあわせて産業振興の観点から実施している自治体の事例（仕事起こし・地域経済への波及効果等）について、どのように検討が行われましたか。 ② 本制度の産業振興、地域経済活性化への効果について、どのように判断されたか。 ③ 今後、創設について具体的な検討はされるか。 (1) 笹枝地区として、森林伐採による水源涵養機能、保水力の低下、そのことが引き起こす耕作田への浸水被害、土砂崩れ、新規就農者の減少などのおそれを理由として、発電所計画、森林伐採の中止を求めている。このことに関わって、以下を問う。 ① 市長は12月14日、県知事に宛てた「(仮称)大分野津太陽光発電事業に係る環境影響評価準備書に対する意見について」で、「事業全般に係る意見」として「地元住民の不安払しょくが事業実施の前提条件と考えている」また「すべての地元地区の同意を得る」ことを求めているが、そのように判断された理由を問う。 ② 11月15日に開催された臼杵市環境審議会では「ファンドからの資金調達。採算が取れなくなったら撤退、転売、放置などが考えられる」、また「全国の例を見ると採算が合わなくなったら別会社に売るということも起こっている。後始末は誰がするのか」などの疑問が出された。こうした危惧は地元住民も強く抱えていることだが、この疑問に対する市長の思いは。 ③ 計画の中止が地元住民の願いだ。この願いを事業者へ届け、計画を断念するよう強く要望するべきと思うがどうか。 (1) 民設民営の飲料水供給施設の維持管理に対する助成に力を入れるべきと考える。以下を問う。 ① 「自宅で洗車することも全戸で自粛、親戚宅等で洗車している」などの苦労が続いている集落の現状をどう考えているか。 ② 水源の取り口、貯水タンクの整備、パイプの取替えなど補修・整備への市としてのサポートの現状は。 (1) 千葉県野田市の小学生虐待事件を受けて、本市としての対応についての検討はされたかどうかを問う。 (2) 児童虐待に対応する現場でのマニュアルはあるかどうかを問う。		
2	大塚 州章	1. DV（ドメスティック・バイオレンス）について 2. 産業振興について	(1) 臼杵市のDV対応について (2) DV対応に関連する連携機関について (3) 隠れDVいわゆる潜在化のものを顕在化するためには (4) シェルターについての必要性は (1) 臼杵市内における昼と夜それぞれの料飲店の推移と特色及び必要性について (2) 特に臼杵市内の事業主が料飲店の新規開業、事業拡張、他テナント移転等、による支援の現状と必要性について、及びどの支援策にも当てはまらない場合の対応について		

一般質問通告書（平成31年3月定例市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
3	戸 匹 映 二	<p>1. スポーツの活用による障がいを持つ人の社会参加と障がい及び障がい者への理解の促進について</p> <p>2. 南海トラフ大規模地震における地震や津波災害時の在宅避難者などへの支援と避難所の整備について</p>	<p>(1) ユニバーサルスポーツの普及推進について</p> <p>① 28年12月定例会の答弁で、「ユニバーサルスポーツなどの推進体制を強化していきたい。」との答弁があったが、その後の経過を伺う。</p> <p>② ユニバーサルスポーツの地域などへの普及促進の為、地域振興協議会や各種団体などの担当者に向けて、ユニバーサルスポーツの種目紹介や体験学習会などを開催し、普及促進を図っては如何か。</p> <p>③ ユニバーサルスポーツや障がい者スポーツの普及促進へ、関係所管の一元化などでの、総合的な推進体制が必要と考えるが如何か。</p> <p>(2) 障がい者スポーツを通じての障がい者への理解の促進について</p> <p>① 障がい者スポーツの魅力を広く市民に伝え、障がい及び障がい者への理解の促進につなげていきたい。その為に障がい者スポーツのアスリートなどを招いて、市民に向けての講演会や体験交流会等のイベント開催への支援に取り組んでは如何か。</p> <p>(1) 在宅避難や車中泊避難者に対する支援体制と支援策について</p> <p>① 自宅に住める状態の場合は、ライフラインが途絶えた中でも、在宅で避難生活を余儀なくされる被災者は多いと考えられる。また、多くの車中泊避難者も想定される。この在宅避難者や車中泊避難者などへの支援についての考えを伺う。</p> <p>② 自助・共助への啓発として、在宅などでの避難生活への準備やノウハウがまとめられたガイドブックを作成しては如何か。</p> <p>③ 熊本地震を受け、在宅避難者や車中泊などの避難者と行政との情報共有に対応できる、福岡市作成の無料提供「防災アプリ」なども開発され、実用拡大の推進が行われている。このような防災アプリの活用についても有効性が確認できれば積極的に導入しては如何か。</p> <p>④ 震度6強への対策強化として、白杵市家具転倒防止対策推進事業補助金の対象者を拡大することも検討する必要があると考えるが如何か。</p> <p>(2) 避難所の災害時備蓄品や施設整備について</p> <p>① 乳児の避難に備えて、液体ミルクが災害時備蓄品として必要と考える。日本製が今年発売される予定となっているが、発売後は災害備蓄品に加えては如何か。</p> <p>② 大規模災害時に避難場所となる学校などの体育館のエアコン設置も、今後進めていただきたいと思うが如何か。</p>		
4	奥 田 富 美 子	<p>1. 事業承継について</p> <p>2. インバウンド対策と空き家を活用したまちなか泊の推進について</p> <p>3. 白杵市から排出される生ごみの活用について</p>	<p>(1) 後継者不在で事業の経営存続が困難な場合、白杵市ではどのような対策を取っていますか？</p> <p>(2) 経営者と担い手をつなぐ「後継者人材バンク」が民間の組織として存在していますが、白杵市としても廃業の危機を救うための仕組みを検討してはいかがでしょうか？</p> <p>(1) インバウンド対策の進捗状況はどうなっていますか？また、現状では日帰り客の多いインバウンドに対して滞在時間を増やすためにも体験型の観光の充実などで宿泊客を取り込む工夫が必要と考えられますがいかがですか？</p> <p>(2) 28年度に地方創生推進交付金を活用して「空き家等の有効活用」などの調査をしましたがそれを受けての進捗状況はどうなっていますか？また、白杵市のまちなか泊の現状はどうなっていますか？</p> <p>(1) この度、白杵市環境基本計画が作成され、ごみの減量化もその中で謳われています。「生ごみ」に関しても回収し有効利用して「ごみ」の減量の方策を模索すると良いと考えますが、どのようにお考えですか？</p> <p>(2) 「建設費最大で510億円」と白杵市を含む6市による新ごみ施設計画案が公表されました。ごみの排出量により、各市の負担額が決まるとのことです。その負担額を軽減するためにも白杵市から排出する「ごみ」を資源として活用するなどの減量化が必要です。市長のお考えをお聞かせください。</p>		

一般質問通告書（平成31年3月定例市議会）

質問順序	質問者	質問の要旨	具体的内容	答弁順序	答弁者
5	伊藤 淳	1. 地域包括ケアシステムの深化・推進について	(1) 地域包括ケアシステムの深化・推進について、地域の実情に合わせた、無駄のない体制づくりのための職員のスキルアップの取り組みの現状と今後の方針などについて教えてください。		
		2. 子ども・子育て総合支援センター「ちあぼーと」によるワンストップの相談対応について	(1) 子ども・子育て総合支援センター「ちあぼーと」による、総合的に切れ目のない子育て支援の現状についてお伺いします。 ① 「妊娠期から18才まで、ワンストップで対応し、切れ目のない支援」とは、どのように行われているのか。 ② 相談に来なくなった人への対応はどうされているのか。 ③ 臨床心理士などの専門職による指導助言の内容が、どのように関係機関と共有されているのか。		
6	内藤 康弘	1. 白杵市農業の現況について	(1) 地域農業（集落営農）に対する今後の考え方について ① 集落営農を推進し、共同作業等によりコストを下げることで、地域活性化、農地の保全を計ってはどうか。 (2) 耕作放棄地解消について ① 現況復帰するための事業は、国庫等を使えばあるが、要件があり使い勝手が悪い。 市独自の事業を創設してはどうか。		
		2. 旧野津高校の利活用について	(1) 12月定例会の答弁において「購入申請を行い、農林振興を中心とした利活用を行う」とありました。 今後のスケジュール、具体案があるのか。		
7	匹田 久美子	1. 交通手段の整備について	(1) 市内交通網の整備のひとつとして、デマンドタクシーの実証実験が予定されているが、どのような方法で行われるのか。 (2) 実証実験の結果を、その後どう検証してどのように活かしていくのか？		
		2. 「サーラ・デ・うすき」の現状と今後について	(1) 『白杵の台所』をテーマに2016年にリニューアルオープンした当施設について、ここ3年間の成果と課題を検証しているか。 (2) 施設内のフードコート2箇所に「白杵の食」レストランを出店する事業者を募集しているが、応募の反応や状況はどうか。 (3) 「サーラ・デ・うすき」が今後目指していく方向性と役割はどのようなものか。		
		3. 成年年齢の引き下げに伴う環境整備について	(1) 2022年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げることが決まっているが、それに伴い「成人式」の開催や内容はどのようになる見通しか。 (2) 18歳、19歳の若年者が親の同意なく契約が結べることで、悪徳商法等の消費者被害が増大するのではという不安が聞かれるが、消費者教育等の検討はあるか。		

一般質問通告書（平成31年3月定例市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
8	若林 純一	<p>1. 「市庁舎」について</p> <p>2. 「ほんまもん農産物」について</p> <p>3. 「納骨堂」について</p>	<p>「市長方針」を受け先ごろ市議会の全員協議会で「白杵庁舎等の整備方針の検討結果について」が示されましたが、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 公用車浸水対策と逃げ遅れた周辺地域住民の「避難タワー」を兼ねた立体駐車場についての検討状況について</p> <p>(2) 東棟1階の執務室を上階へ移動させるとのことだが、津波に襲われた場合の現庁舎の被害はどのように想定されているか？</p> <p>(3) 防災上の観点、被災時の人員及び施設設備、公用車の確保などの観点から、現庁舎に中心的機能を残しつつ、できるだけ旧白杵商業高校へ移すことが有用であると思われるが、市長方針を受けどのような検討が行われたか？ 具体的には「同和人権対策課」「都市デザイン課」「産業促進課」「契約検査課」「選挙管理委員会事務局」「監査委員事務局」「白津広域連合事務局」「教育委員会事務局」などが想定されます。</p> <p>ほんまもん農産物認証制度の見直しに向けた協議が進められているとの答弁をいただきましたが、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 9月定例会で「有機JASを目指す人たちに対し、施策として充実させることが必要であればそれをやっていきたいと思うし、今そういう人たちと協議を担当課がしている」との答弁をいただきました。その後の協議経過と施策の充実について</p> <p>(2) 12月定例会で「『作物認証』から『圃場認証』に変更する考え」とのことですが、見直しの意図とその時期について</p> <p>(3) 化学合成農薬及び化学合成肥料を避けたいという消費者の観点から、ほんまもん『金』認証の農産物と有機JAS認証の農産物とではどちらが秀でていていると考えるか？</p> <p>厚生労働省の指針では「墓地経営主体は、市町村等の地方公共団体が原則であり、これによりがたい事情があっても宗教法人又は公益法人等に限られること。」と示されています。その点を踏まえ、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 白杵市における墓地（納骨堂を含む）の状況について</p> <p>(2) 納骨（散骨を含む）方法の選択肢とその費用について</p> <p>(3) 火葬した後の焼骨について、管理や費用などの面から納骨堂に納めたいというニーズがあります。大分市では市営の納骨堂が整備されていますが、白杵市での納骨堂の整備についての考えは？</p>		
9	梅田 徳男	<p>1. 白杵庁舎等の整備方針に関して</p> <p>2. 上水道管の耐震適合率等について</p> <p>3. 外国人対策について</p>	<p>(1) 公共インフラ担当課の高台移転に関連して、極力、担当する住民サービスが低下することのないよう、十分な配慮が必要であると考えているが、具体的な対応策をお伺いしたい。</p> <p>(2) 津波襲来直後の道路整備やそのための重機類の確保等に関し、どのような対応を考え整備されておられるのか、お伺いしたい。</p> <p>(3) 紀伊半島から伸びている中央構造線が由布市まで達していると国の評価が改められ、2月14日にこの活断層を踏まえた対策が必要であるとの有識者会議の報告が示されている。白杵市の対応としては、想定される被害の程度等に応じた修正は考えられるものの、基本的な対応は、今回の市長方針をベースとすると考えてよいか、お伺いしたい。</p> <p>(1) 上水道管の足下の耐震適合率と今後の更新計画についてお伺いしたい。</p> <p>(1) インバウンドを含む外国人の今後の増加数をどのように見込んでおられるか、お伺いしたい。</p> <p>(2) 双方にとって大きな壁は、言葉が通じないことと生活習慣が異なっている、の2点であるが、これがトラブル等の大きな要因になりかねない。居住区で双方が安全・安心して生活できるようにするための市の対応策についてお伺いしたい。</p> <p>(3) 外国人労働者の市民としての諸手続等に関しては、専用の窓口を設置するなど、外国人労働者が困ることのないよう便宜を図る必要があると考えるが、お考えを伺いたい。</p> <p>(4) インバウンドに関してはW i - F i環境の拡充が必要かと考えるが、具体策についてお伺いしたい。</p>		

一般質問通告書（平成31年3月定例市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
10	河野 巧	1. 3期目の市長方針について	<p>平成28年9月定例市議会において、「市長の任期満了が間近な事に伴う、市長の自己評価と今後の方針」が語られました。その中で、今後は少子化対策、産業の活性化、うすき暮らしの促進を3つの最重要課題として積極的に取り組みますと市長答弁がありました。今年1月で中野市長の3期目となる市政がスタートして折り返しとなる2年が終了しました。公約として挙げられた内容の検証について現在どのように考えているか、また今後どのような課題に向け取り組んでいくのかについて3点質問致します。</p> <p>(1) 少子化対策について (2) うすきの資源を活かした「各種産業の活性化」の取り組みについて (3) 移住・定住による「うすき暮らし」について</p>		
		2. 白杵市及び市関連団体における観光部署の統合・整理及び情報共有、情報発信について	<p>白杵市には観光に対する係が多数存在しています。市役所内部だけでも産業促進課内に商工・観光連携グループがあり、おもてなし観光課内に観光グループと国民文化祭・観光戦略室がある。また、多額の助成をしている白杵市観光情報協会や野津庁舎内に吉四六の里観光協会といった会も存在している。施設で言いますと、白杵市観光交流プラザ、サーラ・デ・うすきなど数多くの施設も運営及び委託をしています。近年では国外からの観光客を誘致するためのインバウンド事業といった事で、地域おこし協力隊や観光施設への係員も増員しています。似たような内容の事を違う部署で違う係が行っていてわかりづらい、無駄ではないかといった市民の意見を多く聞くようになりました。また情報の共有が出来ていないのではないかともお聞きしています。そこで2点質問致します。</p> <p>(1) 白杵市の観光に携わる係、職員は何人いて、行政と民間の仕事の住み分けはどうなっているか。また、指揮命令系統についてはどうなっているか (2) 観光に関する部署の一元化ができないか。真に観光に特化した組織の構築及び情報の発信・共有について</p>		
		3. 白杵庁舎に関する基本的な方針及び白杵庁舎等の整備方針の検討結果について	<p>平成30年6月定例市議会での白杵庁舎整備に関する市長方針を受け、この度、執行部より白杵庁舎等の基本方針の検討結果について説明がありました。こちらについて質問致します。</p> <p>(1) 「避難タワー」を兼ねた立体駐車場の件について (2) 市民の庁舎利便性について (3) 業務の効率性について (4) B C Pにおける勤務時間外の職員の参集場所について</p>		